

「河川砂防技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
水理解析と水位観測データ同化技術を組み合わせた河川縦断水位及び越水氾濫危険度の把握・予測手法の開発（研究期間：H28年～H29年）	株式会社東京建設コンサルタント 渡邊 明英	A
<研究概要> <p>航空測量とALBに基づく細密な平面二次元河道流モデルと観測縦断水面形に対して、水面形の伝播及び時間変化をアジョイント法に基づいて同化解析することにより、河道左右岸における縦断水面形の時間変化を把握する技術を開発し、当該区間上流側の水面形の伝播から当該区間における水面形の時間変化をリアルタイムに予測する技術を開発し、堤防高の縦断分布等と併せて地先別の氾濫危険度情報の見える化への寄与を図る。</p>		
<事後評価コメント> <p>洪水時の多地点の観測データ、同化解析、平面2次元流、河床変動計算を組み合わせ、洪水流と土砂移動を一体的に解析して左右岸の縦断水位を精度よく把握・予測するトータルな解析手法が開発され、治水の新しい方策への展開が期待できる研究成果となっており、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。 危機管理型水位計の開発などにより密度の高い水位計の配置が可能となっており、特性の異なる様々な河川での実証検証を行い、避難行動に資するリードタイムを考慮した統合的な数値解析手法として研究を進展させることが期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い